

## 望診の臨床応用

高橋楊子・上海中医薬大学附属日本校

よい医者・薬剤師・施術者になる三つの条件①理論を知る、②患者を知る、③薬を知る。  
 中医診断学は患者を知る術である。

四診は、施術者が自分の五官である視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚によって患者のあらゆる情報を収集し、中医学的な理論に基づいて分析・概括するものである。

「欲知其内者、当以觀乎外、・・・蓋有諸内者必形諸外」『丹溪心法』

「經言望而知之謂之神、聞而知之謂之聖、問而知之謂之工、切而知之謂之巧」『難經』

### 一、望診 望而知之謂之神

視覚により患者の状態（神・色・形態・姿勢・局部及び舌象など）を把握する。

#### (一) 望神

##### 1. “神” の概念

得神者昌、失神者亡 『素問』

2. 望神の内容：①体形、②顔の色彩や光沢、③眼神、④表情、言葉や動作、⑤呼吸状態。

3. 神の四つの状態：①得神、②少神（神気不足）、③失神、④仮神、⑤神乱

	1. 得神	2. 少神	3. 失(無)神
体・四肢筋肉	筋肉が衰えず	痩せて筋肉が少ない	筋肉が無くなる
顔の色と艶	血色がよく、つやがある	血色は少なく、つやが欠ける	血色はなくつやがまったくなく
眼神	目に輝きと元気があ	輝きと元気が欠ける	輝きがなくて死んでいるような感じ、酷くなると、瞳孔反応は無い
表情・言葉・動作	精神良好・反応機敏・動作言葉正常	健忘・反応や動作緩慢・声が小さい	無表情・反応遅鈍・意識不明・声が低く弱々しい
呼吸状態	穏やかな正常	息切れ	呼吸困難
病状と予後	正常か軽病(予後良好)	軽・中度病(予後良好)	重度の病(予後悪い)
臨床意義	精気充実	精気欠損・臟腑虚弱	精気衰退・臟腑衰弱

  

5. 神乱 →精神意識の異常な病氣 癲(うつ病・うつ状態) 癩(癲癩) 狂(狂躁・躁鬱病) 痴(認知欠落・認知症)	4. 仮神 重病の失神状態から突如に病状が好転のような変化が現れる →臨終の前兆。例えば戴陽症・除中一 精気衰竭・陰不斂陽・虚陽浮越 陰陽衰竭・陰陽離決
---	---

#### (二) 望顔色

望顔色は、顔の色と艶の両方から観察する。正常なアジア人の顔色は黄色や白色があるが、いずれにしても血色の赤みが見え、艶がある。それは気血津液・臟腑の充実を示す

十二経脈、三百六十五絡、其血氣皆上于面而走空(孔)竅 『素問』

1. 色と五臓の関係 以五色命臟、青為肝、赤為心、白為肺、黄為脾、黒為腎

2. 部位と五臓の関係

3. 五色の診断意義 **青黒為痛、黄赤為熱、白為寒** 『靈樞・五色篇』

- (1) 青——寒証・痛証・瘀血・驚風。(肝病)
- (2) 赤——熱証。(心病)
- (3) 黄——虚証・湿証。(脾病)
- (4) 白——虚証・寒証・脱血・奪氣。(肺病)
- (5) 黒——腎虚・寒証・痛証・水飲・瘀血。(腎病)

五行	五臟	臨床意義
木・青	肝	<u>寒証・痛証・瘀血・驚風(肝病)</u> 蒼白(青白い) →陰寒内盛(外感風寒・陽虚内寒・寒痛) 青紫(顔色・唇色) →寒凝瘀血 青灰(顔色・唇色) →心陽不足 小児高熱とともに眉間・鼻翼・口唇周りの青灰→驚風前兆 急に青ざめた →肝鬱氣滯
火・赤	心	<u>熱証(心病)</u> 満面通紅(顔全体が真っ赤) →実熱証(外感熱邪・臟腑陽盛) 頬だけに薄く赤くなる →虚熱証(陰虚内熱・陽亢) 久病重病に顔白が突如ベニで化粧したような赤みが現われる「戴陽証」 →陰陽衰竭、または真寒假熱の虚陽浮越
土・黄	脾	<u>虚証・湿証・(脾病)</u> 痿黄 →脾氣虚・氣血兩虚 黄胖 →脾虚内湿 黄疸(陽黄→湿熱 陰黄→寒湿・脾虚内湿)
金・白	肺	<u>虚証・寒証・脱血・奪氣・(肺病)</u> 晄白 →陽虚内寒・陽虚水停 淡白 →血虚・氣血兩虚・脱血(大出血、慢性出血) 蒼白 →陰寒内盛
水・黒	腎	<u>腎虚・寒証・痛証・水飲・瘀血</u> やや黒い顰黒 →腎虚・血行不暢 顔や耳殻が焦黒乾燥→腎精衰弱・陰液虧損 目の下に黒い隈 →腎虚・寒湿下注(帯下病)・慢性睡眠不足 どす黒+肌膚甲錯 →瘀血

(三) 望形態

1. 体型： 「肥人多氣虚」「肥人多痰」、「瘦人多陰虚」、「瘦人多火」
2. 姿勢、動作：**陽主動、陰主静**

(四) 局部の望診

1. 望頭
2. 望髮(髮のトラブル)
3. 望目(目のトラブル)

五臟六腑之精氣、皆上注于目而為之精。精之巢為眼、骨之精為瞳子、筋之精為黒眼、血之精為絡、其巢氣之精為白眼、肌肉之精為約束 『靈樞・大惑論』

4. 望耳(耳のトラブル)
5. 望鼻(鼻のトラブル)

6. 唇、歯、咽喉の望診
7. 望皮膚
8. 望排泄物
9. 望絡脈（小児指紋）
10. 望爪（爪のトラブル）

（五）望舌（【舌診】を参照）

【症例検討】子供の髪遅

患者：5歳の女の双子

望診：やや痩せ型、顔色萎黄無華、髪の毛はとても少ない、頭頂部だけ薄く細く茶色っぽい髪の毛がある。生まれてから一度も切ったことはない。

問診：食欲が少ない、活発によく動く。ロタウイルスの感染で入院したことはあった。産まれたときの体重 姉は2350g、妹は1980g

舌診：淡紅舌やや淡、薄白苔

母親は33歳で、髪の毛は薄い（父親普通）。28歳自然妊娠、妊娠7カ月後半、めまい、立ちくらみ、切迫流産の出血があり病院に行き、貧血と言われて、出産まで入院して点滴をずっと受けていた。37週目に自然出産

弁証：

治則：

おすすめ処方：